2017年10月15日

福音書からのメッセージ

王は家来たちを送り、婚宴に招いておいた人々を呼ばせたが、来ようとしなかった。
（マタイによる福音書22章3節）

ある王が王子のために婚宴を開きます。王は家来たちを使って、婚宴に招いておいた人々を呼ばせます。決して突然呼ばれたのではありません。あらかじめ、「あなたを招待する」と言っておいた人に声を掛けたのです。ところがその王の呼びかけは無視されます。「食事の用意が整いました」と言ってもまた無視され、ある人は畑に、ある人は商売に出かけてしまいます。さらに他の人たちは、王の家来を捕まえ、乱暴し、殺してしまうわけです。

彼らは自分の用事を優先して、王様の誘いを断わりました。さらに跡継ぎであるはずの、王子の婚宴をないがしろにします。それは王子がやがて王を継承するのを認めていないことを意味します。その態度を王は怒り、彼らの町ごと滅ぼしてしまいます。

これは天の国のたとえです。この物語は当時自分たちは選ばれた民だと自負していたイスラエルから、天の国が取り上げられたことを描いています。そして王は、婚宴の席にありとあらゆる人を招きます。通りにいた善人も悪人も、みな連れてきます。天の国は、選ばれた人だけが入る場所ではなくなりました。すべての人に、その扉が開かれたのです。

ここでこの箇所が終われば、ハッピーエンドです。しかしたとえ話はここでは終わりません。王は婚宴に来た客を見るために、宴席に入ってきました。そこに礼服を着ていない人を見つけます。彼は礼服を着ていなかったばかりに、外の暗闇へと放り出されてしまいました。

では彼が着なかった礼服とは、何を意味

するのでしょうか。礼服は、とても便利なものです。それを着ると、誰が誰だかわからなくなります。そして、すべてを隠してくれます。泥だらけの格好も、傷だらけの身体も、今までどんな人間でどんなことをしていたのか、それらをすべて礼服は隠すのです。

わたしたちにとっての礼服とは、何なのでしょう。それはわたしたちが神さまの前に立つときに、わたしたちの罪を覆ってくれるものです。わたしたちの礼服、それはイエス様です。わたしたちはイエス様を身にまとい、祝宴に向かうようにと促されているのです。

神さまはわたしたちを愛し、わたしたちが再び神さまの前に立つことができるように、天の国の宴に集うことができるようにと、イエス様を遣わされました。そのイエス様を受け入れるとき、わたしたちの身体はイエス様に包まれるのです。

わたしたちは神さまに招かれています。その神さまの愛に応えるために、イエス様を救い主として受け入れ、キリストという礼服を身にまといましょう。

桃山基督教会

〒612-8039
京都市伏見区御香宮門前町184
TEL/Fax　075-611-2790
メール momoyama.kyoto@nskk.org
＜教会ホームページ＞
http://momoyama.hannnari.com/